

2013年度事業報告書

- 1.全体の報告(成果と課題)…P1
 - A ボランティアセンター…2
 - B フードバンク宇都宮…6
 - C 災害ボランティアオールとちぎ…9
 - D NPO活動推進センター…11
 - E とちぎコミュニティ基金…14
 - F 若者自立支援…17
- 2.その他の事業 3.財政運営 4.組織運営…P18

1.全体の報告(評価)

【成果と課題】

●会員の組織として、新しい企てを行った1年

前期に策定した中期計画に基づいて、事業、組織、仕事のしかたについて大幅な改革を行った。ボランティア情報は**体裁の変更**(隔月発行・カラー版)とともに、**編集方針**を「情報の提供」から「**活動者の交流・紹介**」に変更した。

組織運営では会員の集い(Vネットの集い)や支援者の集いをより楽しいもの、交流・懇親ができるように工夫した。会員総会も会員全員が関われる機会になるように映画会や討論会を設けた。支部活動では**県北コーヒースタイル**や**県北Vネットの集い**を実施したが、その運営もなるべく県北在住の会員が自分たちで開催できるようにした。

対外的な活動方針としても、NPO全体の活性化を目指す方向性から「**市民活動を行うNPO**」の**育ち合い、相互協力**へと支援の方向性を集中した。その結果、県内で初めて寄付・資金調達についての研修会**ファンドレイジング栃木**を実施することができた。

主に会員とのコミュニケーションを変えていくことに集中した1年間であり成果もあったが、職員の組織運営に関する業務が増え、事業の遂行が圧迫されたことが課題であった。

●チャリティウォーク56.7の開催によるファンドレイジングと広報

フードバンク事業は運営経費のすべてを寄付や助成金で賄うため寄付金集めが必須である。前期から資金調達のためのチャリティイベントを構想していたが、11月8・9日に**チャリティ・ウォーク56.7**を実施し、**2,107,287円の寄付**を集めることができた。栃木県のみならず地方では、まだまだファンドレイジングの成功例が少なく、初回で200万円の寄付を得た寄付イベントの衝撃は県内NPOに対して大きなものがあった。同時にチャリティ・ウォークによる一般の人に対するフードバンクの**宣伝効果**は絶大なものがあった。

●新しい事業の準備「総合相談支援」と「無料職業紹介所」

生活困窮者自立支援事業実施を見越して、自主事業として**総合相談支援センター事業**を前期から実施し、今期は**71回(41件)**の相談支援をした。徐々に継続ケースが多くなっており、自立へ向かうこともなかなかできない困窮者も多い。食品支援の「その先」を見出すためにも事業の受託が必要である。また福祉的支援ではない方法として仕事の紹介も必要であり、**無料職業紹介所の許可手続き**をとった。2014年6月に許可される予定である。次年度から(一般社団)栃木県若年者支援機構と協働して職業自立支援の事業を進める。

●とちコミの活性化と「ファンドレイジング栃木」の実施

「市民活動を行うNPOを支援する」前提で、とちぎコミュニティ基金を運営した。とちコミは、寄付を

集めて分配する方式の市民基金ではなく「**NPO自身寄付集めすることを応援する**」市民基金として活動すること心がけた。**寄付ハイク**はNPO15団体、寄付者186人、総額**90万円の寄付**を集めることができた。（なお当期も2014/5/10に実施し寄付**135万円**になっている）寄付ハイクの5年間にわたる実践で、やっと100万円の大台が見えるようになり、寄付集めやイベントを通じた市民の巻き込みを意識するNPOが増えてきた。前述の**チャリティ・ウォーク56.7の成功による相乗効果**もあって、ファンドレイジングが一種のブームになった。「ファンドレイジング栃木」はそうしたタイミングで行うことができ、県内NPOへの一筋の希望になった。

●10年後を見ずえた組織改革

2015年12月で本会は発足20年目を迎える。このあと10年後を見越した組織運営は、「たすけあう会員の会」であり、事業の核は「個人個人のSOSによりそう」活動である。そしてやってくれるのを待つのではなく「自分たちで問題を解決する」という姿勢である。本会の成長のイメージは、事務局＝宇都宮への一極集中ではなく、県内全域への増殖である。その意味で、**県北支部の自立化の兆し**は見えてきたが、他の地域の支部化への動きはまだ作れていない。成長イメージの共有と会員による活動実践は今期以降の課題である。

2.事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. ボランティア活動と民間非営利団体に関する啓発普及、研修、助言、調査研究、相談援助、および情報資料の収集・提供	(1) ボランティア・コーディネーション事業よりそいホットラインの運営支援	随時	法人事務所	職員2人、ボラ28人	国民4200件の相談対応	共通経費に含む
	(2) 一芸ボランティア事業	随時	法人事務所	職員1人	1件。県民、福祉施設	共通経費に含む
	(3) 講師派遣事業	随時	県内139回、大阪、	職員3人、役員3人	県民など約1865人	40
	(4) 「月刊・ボランティア情報」の発行事業(A4判16ページ、1300部)	隔月(年6回)	法人事務所	職員2人、ボラ25人	会員690人、県内NPO、福祉施設・社協等100団体	1,047
	(5) 新聞情報収集・データベース化事業①原稿執筆	毎週火曜日(年50回)	法人事務所	ボランティア2人	県民、情報誌読者、市民活動リーダー等	共通経費に含む
	(6) 震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟、運営	災害時、会議4回	東京、名古屋	職員2人、ボラ1	国民、被災地住民、災害救援を行なう全国のNPO	共通経費に含む
	(7) 【災害】啓発・普及活動 ①講師派遣 ②ネットワーク・会議 ③定例会議	随時	県内、東京、名古屋	職員2人、役員1人	(4)①は県民319人	共通経費に含む
(7) 「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」の運営	2012/6/16-16、他実行委員会3回	大阪、東京	職員1人、参加は職員3	全国の民間ボランティア・NPO支援センター役職員30人	共通経費に含む	
2. 生活困窮者の支援	(1) 総合相談支援センターの運営	毎日	法人事務所	職員5人、ボラ11人	79回(41件)生活保護同行支援7人	6,328
	【フードバンク宇都宮】 (2) フードバンク事業 ①フードバンク活動 ②大田原支部の設置と真岡集荷場の確保 ③フードドライブの実施	毎日	本会事務所、大田原、真岡	職員1人、理事3人、ボラ20人	食品寄贈：県内61施設に55回、困窮世帯52世帯67回路上の困窮者21人に55回	
	(3) ホームレス支援 ①夜回り ②生活保護受給の支援 ③居場所の提供	毎週水曜日、随時	本会事務所、宇都宮市内	職員1人、ボランティア5人	夜回り：49回・198人 炊出し：2回・180人	
	(4) フェンドレジングの強化「チャリティ・ウォーク56.7」	5～11月毎週水曜日、	本会事務所、日光市	職員3人、ボランティア70人	栃木県内の生活困窮者、FB宇都宮利用者	
3. 若年無業者、障害者の就労支援および自立支援	(1) 若者未来基金	随時	県内、ジョブカフェ内、法人事務所	役員1人、ボランティア1	県内の若年無業者とその支援者	268
4. 災害救援および復興支援	(1) 東日本大震災復興支援活動 ①宮城県石巻尾崎地区との交流事業、他	年8回	法人事務所、宮城石	職員1人	被災地住民120人、参加者50人	6,529
	(2) まけないぞう事業	随時	県内20ヵ所	職員2人、ボラ51人	被災地住民20人	
	(3) 救援・復興支援活動 ①緊急救援①西伊豆、②一関等5カ所、③山口・島根・フィリピン台風	随時	法人事務所、各被災地	職員3人、ボラ20人	(3)は被災地住民	
5. 民間非営利団体の活動資金の援助事業	【とちぎコミュニティ基金の運営】 (1) メイン基金の運営	随時	法人事務所	職員2人、実委	県内NP035団体	734
	①寄付ハイクの実施	5月19日	法人事務所、栃木市	職員3人、実委5人	県内NP012団体、参加81人	
	(2) 冠基金「花王ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業	8-2月:審査12/12、2/7	法人事務所、ばぼら、くら	職員2人、実委5人	県内NP06団体に総額49万円助成(花王から直接NPOに振込)	
	(3) 冠基金「とちぎゆめ基金」事業	8-2月:審査12/12、2/7	法人事務所、ばぼら	職員2人、実委5人	県内NP04団体に総額70万円の助成	
	(4) とちぎVネット災害救援ボランティア基金「復興支援サポート助成」	実施しなかった				
6. 民間非営利団体の育成事業	(1) NPOに関する相談・協働事業 ①SAVE JAPANプロジェクト	6/1、10/12/15	法人事務所、市貝町	職員1人	県民125人	1,000
	②NPOの研修事業「栃木市民活動フォーラム2014-第1回ファンドレイジング栃木」	2014/2/8、	法人事務所、公開講座4回、内部研修5回	職員1人、スタッフ3人	参加者67人(県内NPO法人31団体) 前日講座は参加21人	113
	③NPO法人会計基準普及講座	4月17日	ばぼら	職員1人	NP0関係者25人	共通経費に含む
	④NPOに対する事務所スペースの貸出し、備品・機器貸出	随時	法人事務所	職員1人	備品貸出5回、会議利用1回	56
	⑤コーヒーサロン事業	4回 7/26 9/27	法人事務所 県北支部	職員1人、役員1	県民41人、本会情報誌の読者(900通)	6
7. 共通事業費	上記事業に関わる共通事業費					3,422
8. 管理費	上記事業に関わる管理費					4,101

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. その他の事業	物品販売	随時	本会事務所等	職員1人	NP05人(団体)	217

事業報告 A.【ボランティアセンター】

(1) ボランティア・コーディネーション事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

「ボランティアしたい」活動希望者に活動の場を紹介するとともに、「ボランティアの応援求む」ニーズに対応するためボランティアの需給調整をおこなった。困難ケースは相談・援助をし、解決を図った。

個別SOSを解決は「総合相談支援センター」が担ったため、事業の意義が問われている。ボランティア・コーディネーション事業も「ボランティアとともに実施するSOS対応事業」へと重点(視点)を変える時期でもあるだろう。

(よりそいホットラインの運営支援)

また、今期も厚生労働省「社会的包摂ワンストップ相談支援事業」を実施している同センター・コールセンター栃木の運営支援をした。栃木では年間4200件の電話相談に対し30人のスタッフで対応した。そのうち緊急の支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった

(2) 総合相談支援センターの運営 (生活困窮者の支援)

総合相談支援センターでは、ボランティアセンターでのSOS対応の相談やフードバンク宇都宮への相談、とちぎ若者サポートステーション、社会的包摂支援センターからの相談をまとめて、個別に応援した。

市民活動の仲介機能だけに特化するだけでなく実際の社会問題は解決するため、本会が発足当時から行ってきた「個別のSOSに同行支援する方法」をとることを全面的に公開して実施した。ボランティアの個性・柔軟性を最大限に活用することがこれからの地域福祉推進に必要な能力と考える。支援件数は41件、のべ79回となった。

相談は様々なものがあり複合的な問題が多く、ほとんどは既存の関係機関・サービスとかかわっているものの、縦割り、地域割、本人の能力の不全などの弊害により、各種サービスが使えないことが課題である。同行支援(人生の伴走支援)はその点でもっとも必要とされる支援方式である。以下は相談支援の内容である。

(無料職業紹介所の運営)

生活困窮者の職業自立支援のため、無料職業紹介所の年度内開設を準備してきたが、時期が遅れ当期にずれ込んでの開設となった。(2014年6月に設置許可の予定)。生活困窮者自立支援事業受託が前提の事業である。事業の運営は「栃木県若年者支援機構」と連携しながら実施する予定である。

総合相談支援センターでの支援概要(実数)

	氏名	年齢	月日(初回)	継続	住所	住居	分類	家族数(人)	経由	状況	対応	泊	支援(2014/4現在)
1	I	40代男	2013/4/7	2	佐野		金銭管理欠如	1	直接	メールで支援要請。九州出身、工場で働いていたが、仕事上の怪我で退職。障害者年金で月10万円程度の収入があるが、金銭管理ができず困窮。	食品を佐野市まで配送する。最寄りのフードバンクを紹介したが再度支援要請をしてきた。本格的に現地の支援につなげることを検討中		完了
2	I	82男	2013/4/25	1	那須塩原市		病気	3	直接	80代の高齢夫婦と53歳長男の3人家族。長男が病気治療のため働けず、その治療費が年金収入のみの家計を圧迫して困窮。	食品を自宅へ配送する。		完了
3	Y	72女	2013/5/21	1	宇都宮		盗難	1	社協	宇都宮市内に住んでいる困窮者が直接事務所を訪ねてきたので対応する。ひったくりにあつて財布を盗まれ、今月困窮し生活保護。貯金もゼロらしい。	生保受給までの10日分程度の食品を渡す。		完了
4	S	59男	2013/6/4	1	宇都宮	住居なし	刑余者	1	社協	宇都宮社会福祉協議会が紹介。刑務所を出所して2日の人が食品を求めて訪問してきた。住む場所もお金もない。パチンコ依存になっている。	生保を受給して生活することに方向性を決める。	4	経過観察中
5	S	30女	2013/6/5	1	宇都宮		母子・生活困窮	2	よりそい	寄り添いホットラインから食品支援の要請が入る。母子家庭、子供が内臓疾患を持っている。	よりそいホットラインのコーディネーターに食品を渡し自宅まで届ける。		完了
6	不明	30女	2013/6/6	1	宇都宮		低収入	2	保健所	宇都宮市の保健所から食品を支援をしてもらいたいと要請。低収入により困窮。	1ヶ月分程度の食品を保健所職員を通して渡す。		完了

7	S	不明男	2013/6/6	1	二本松		震災被災者	1	直接	二本松の仮設住宅からメールで食品の支援要請。避難生活で仕事もできず困窮状態。	仙台市のフードバンク「あがいん」の協力を得て食品を宅配便で届ける。		完了
8	K	47女	2013/6/7	8	宇都宮		母子・DV・精神	2	保健所	DV被害にあつてひっそりと暮らしている方の自宅に食品を届ける。母娘の二人世帯だが二人とも障害や精神疾患を抱えていて孤立した状態で暮らしている。	本人に1ヶ月程度の食品を渡す。		継続
9	E	67男	2013/6/18	1	宇都宮	住居なし	路上	1	社協	年金とバイトで生活していたが家賃滞納で車上生活になり、住所不定の状態という事で年金を止められ困窮。現在の状況では仕事に就くこともできない。	住所、住居を確保するため、同行して生活保護につなげる。	3	年金受給ができ完了
10	K	40代男	2013/6/18	1	宇都宮	住居なし	失業・移動	1	職安	ジョブモールから連絡があり対応。職を求めてきたが求職レベル以前に食べるものを得ることができない状態。お金も住む場所もない。	福祉事務所に同行して生活保護につなげる。		完了
11	Y	40代男	2013/6/30	2	白河		震災被災者	4	直接	白河市の中田仮設に住む父子家庭。父親の金遣いが荒く困窮。	1週間程度の食品を宅配便で送る。		継続
12	不明	30代女	2013/7/23	1	宇都宮		母子・低収入	2	子ども家庭課	低所得により困窮。子ども家庭課より食品支援要請。	宇都宮市子ども家庭課職員を通じて食品を支援。		継続
13	K	56男	2013/7/30	1	宇都宮	住居なし	失業	1	直接	失業により困窮。実家に住所をおいていたが、生活実態が無いので住所を抹消されていた。公園で路上生活状態。	福祉事務所に同行して生活保護につなげる。	4	経過観察中
14	X	20代女	2013/8/8	1	宇都宮		精神疾患	2	直接	付き合ってから数ヶ月だが、お互いに低収入で困窮している。女性の方が精神疾患を持っている。	女性に対しては、生活保護を進めるが拒否。二人に2週間程度の食品を引き渡す。		完了
15	S	42女	2013/8/29	4	宇都宮		母子・金銭管理欠如	3	個人	近所の方から支援要請あり。今住んでいるアパートが解体されるが、引っ越せないでいる。引越費用が無いのと、引越しをする能力が不足。	自宅を訪問し、引越しの計画や転居先等の計画を行う。		継続
16	I	60代男	2013/9/4	2	宇都宮		精神疾患	2	直接	奥さんが統合失調症、本人も精神疾患を持っていると思われる。生活の様子を見に自宅へ訪問。	清涼飲料水を少し渡す。特に現在問題なし。		継続
17	A	40歳男	2013/9/26	1	宇都宮	住居なし	路上	1	社協	放浪型路上生活者、少しパチンコ依存症を持っている。自分がどうしたいのか意思は無いが支援を求めてきた。	宇都宮市に住む決意があったので、福祉事務所に同行して生活保護につなげる。	5	行方不明
18	T	41男	2013/9/30	1	佐野	住居なし	知的ボイダー	1	直接	仕事を求め益子町に向かって歩いて目指していた。途中宇都宮社協に相談に行って、フードバンクを紹介されて支援を要請しに来た。お金は持っていない。	翌日、車で益子町に送る。1日で職探しを断念し、車で益子から佐野へ送る。	1	完了
19	O	40代女	2013/10/8	1	宇都宮		母子	2	NPO	母子家庭。本人のパート賃金と息子が働き出して収入が増えたため、生保を打ち切られた。しかし、息子が生活費を入れてくれないので困窮。	10日間程度の食品を本人に引き渡す。		継続
20	T	66女	2013/10/8	1	宇都宮		母子・精神	1	包括	母子家庭 精神疾患を持っている。年金等の収入が低所得。緑が丘・陽光地域包括支援センターから食品の支援要請。	10日間程度の食品を自宅へ配達した。		完了
21	X	40代女	2013/10/31	1	宇都宮		母子・働けない	2	子ども家庭課	子ども家庭課から支援要請。働けないので困窮。日光市に移住予定	2週間程度の食品を支援。子ども家庭課職員を通じて渡す。		完了
22	S	42男	2013/11/6	1	宇都宮	住居なし	失業・移動	1	社協	郡山市出身、栃木県で建設作業員をしていたが失業。困窮	福祉事務所に同行して生活保護につなぐ。自力で生活を再建したいので以後の支援は拒否された。	3	行方不明
23	K	57男	2013/11/7	1	宇都宮		金銭管理欠如	1	直接	生活保護を受給、やりくりがなかなかできないお金はある程度所持している。	危機的状況になったら来てくださいと伝え特に具体的な支援はなし。		経過観察中
24	T	77女	2013/11/13	3	宇都宮		母子・金銭管理欠如	2	直接	電話で本人から支援要請、山田、鈴木で食品配達。	自宅へ15日分程度の食品を配達。		継続
25	H	41女	2013/11/13	1	足利		金銭管理欠如	1	よりそい	足利市食品が欲しいと電話連絡。自力で金銭管理ができない。	山田、矢野で精米 5kg 配達		経過観察中
26	O	55男	2013/11/13	1	郡山	住居なし	失業・移動	1	社協	大阪府出身福島県二本松で失業、何の当てもなく宇都宮に来た。	宇都宮に暮らすことを決意し、生活保護につなげる。	5	継続
27	S	40代女	2013/11/14	2	那珂川		DV・精神	2	NPO	ウイメンズハウスとちぎをつづいて支援要請、精神疾患に苦しんでいる。子供(長男)も働けず困窮。	ウイメンズハウスの支援者に食品を通じて渡す。		継続
28	K	50代男	2013/11/18	1	宇都宮		失業	1	NPO	西市議からの支援要請。生活保護を受けるまでの食品を支援してほしい。	生活保護を受取るまでのつなぎとして食品1週間分を渡す。		完了
29	U	30代女	2013/11/20	1	宇都宮		母子・家庭不和	2	子ども家庭課	宇都宮市子ども家庭課より支援要請。別居中の夫が車を所有しているので生活保護を受けられない。	2週間程度の食品を支援。子ども家庭課職員を通じて渡す。		完了
30	H	62男	2013/11/20	1	宇都宮		高齢者虐待	1	直接	孫に金を盗まれるも、身内なので被害届も返金要請もできず、困窮してしまつた。	本人に15日分程度の食品を提供		経過観察中

31	K	80 男	2013/12/3	1	宇都宮		金銭管理欠如	1	直接	直接本人が訪問。「布団が欲しい。」家にはない。認知症の疑い有り。	布団と3日分程度の食品を提供	経過観察中	
32	W	20 代 男	2013/12/10	1	宇都宮		失業困窮	2	子ども家庭課	子ども家庭課より支援要請。21歳と19歳の夫婦 妊娠中 夫が怪我して働けなくなり収入がない。	15日分程度の食品を提供。子ども家庭課職員を通じて渡す。	完了	
33	S	40 代 男	2014/1/8	1	那須塩原市		失業	1	直接	電話で食品の支援要請。お金が無くなり食べ物がない状態。	10日分程度の食品を宅配便で送る。	完了	
34	N	50 代 男	2014/1/9	1	宇都宮	住居なし	失業	1	NPO	西市議の奥さんが同行して支援要請。失業して困窮したが、車があるので生活保護を受けられず。家賃、電気、ガス代滞納。	3週間分の食品を本人に渡す。	完了	
35	E	31 女	2014/1/9	1	栃木		精神疾患	1	NPO	原田支援員より支援要請。精神疾患にかかって働けなくなった。出費がかさみ保護受給までのつなぎ食品の支援要請。	原田支援員を通じて2週間分程度の食品支援。	経過観察中	
36	M	? 男	2014/1/9	1	栃木		病気	3	NPO	原田支援員より支援要請。病気により失業して困窮状態。	原田原田支援員を通じて2週間分程度の食品を提供。	経過観察中	
37	J	68 男	2014/1/16	1	鹿沼		金銭管理欠如	1	社協	鹿沼市社会福祉協議会経由で食品支援を要請される。金銭管理ができずお金が無くなり困窮してしまった。食べ物を買う金もない。	鹿沼市社会福祉協議会職員を通じて食品を提供する。	完了	
38	K	20 代 女	2014/1/21	1	宇都宮		母子困窮	2	子ども家庭課	母子家庭、子ども家庭課より支援要請。詳細不明困窮しているとのこと。	子ども家庭課の職員を通じて食品を提供。	完了	
39	H	46 男	2014/1/21	1	宇都宮	住居なし	失業・移動	1	社協	北海道出身。東京で失業、東京から地元の北海道を目指して当てもなく栃木県まで歩いてきた。宇都宮市社協からフードバンクとつながる。人間関係がうまく築けず失業してしまった。	福祉事務所と同行して生活保護につなげ社会復帰を目指すことにした。	3	行方不明
40	Y	51 男	2014/2/6	1	鹿沼		病気	1	直接	障害者年金受給者 電話で支援要請。ひきこもり状態。受給日までのつなぎの食品を支援する。	自宅に1週間程度の食品を届ける。	経過観察中	
41	I	49 男	2014/2/20	1	宇都宮	住居なし	失業・移動	1	社協	宮城県東松島で、建設作業員をしていたが失業した。宇都宮市社会福祉協議会に相談し、当会を紹介され支援を求めた。	東京に向かうというので、パンを渡し電車賃を貸した。	完了	
42	K	31 女	2014/2/21	3	宇都宮		怪我・DV・母子	2	直接	母子家庭、DV被害を受けて長崎県から栃木県に逃げて生活している。怪我をして職場を休んだため収入が減り困窮。	一ヶ月程度の食品を直接本人に渡す。	支援継続	
43	O	66 男	2014/2/26	2	宇都宮		失業	1	保健所	保健所から紹介。建設会社で働いていたが、失業して困窮してしまった。	本人に直接食品を2週間分程度の食品を提供。	経過観察中	
44	T	35 男	2014/3/11	2	宇都宮	住居なし	金銭管理欠如	1	社協	日光市社協により支援要請。愛知県で派遣の仕事をしていましたが、労災で仕事ができず、休業補償で生活している。母の葬儀で日光市に一時的に居住。住む場所なしお金なし	当事者の母が住んでいた集合住宅に食品を配達。	経過観察中	
45	Y	60 代 男	2014/10/1	1	宇都宮		失業	1	保健所	宇都宮市保健所から支援要請。お金と食べ物がない。	10日間程度の食品を保健所職員を通じて渡す。	完了	
46	B	? 男	2014/10/1	2	鹿沼		病気・失業	5	社協	日本在住8年。鹿沼市社協職員から支援要請。病気になり働けなくなり困窮。5人家族	鹿沼市社協職員により食品を配達する。	経過観察中	

(3)一芸ボランティア事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

ボランティア活動したい人と福祉施設の「ボランティア求む」のマッチングを促進するため、1年に数回程度の単発ボランティアの機会を提供する「一芸ボランティア」を9年前から実施している。今期は数件の依頼があったので、退職した前任者に依頼してコーディネートをした。この事業は受入施設側の評価も高くボランティアの満足度も高いが、コーディネーターが不在のまま1年が過ぎた。対策が必要である。

(4)講師派遣事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は139回(聴講者数のべ1865人)となり、昨年とほぼ同じであった。講義はシルバー大学校が3校でのべ44日(午前午後で88回)が多かった。他に大学、NPO支援センター、自治体、社協、NPO、自治会からの依頼があった。

講義内容としては、困窮者支援、フードバンク、ボランティア論、NPO論、災害関係、ファンディング(資金調達)についての講師依頼があった。

	月日	講座名(内容)	主催等	場所	派遣講師	聴講数 (のべ)
1	4-7月 10-1月	シルバー大学校(北校、南校、中央校2)=88回 ・ボランティアを始めよう(4回×4校=16) ・施設ボランティア実習発表(2回×4校=8) ・災害図上訓練、防災マップ作り(6回×4校=24) ・自主研究(10回×4校=40)	栃木県健康福祉協会	矢板、宇都宮、栃木	矢野、青木、徳山	880人
2	4-5月	宇大国際学部大学院・国際NPO起業論(4回)	宇都宮大学国際学部	宇都宮	矢野	36人
3	4-6月	独協医大看護学部「ボランティア論」(15回)	獨協医科大学・看護学部	壬生	矢野(他6人)	180人
4	6-3月	こぶしの会・編集会議アドバイザー(9回)	(社福)こぶしの会	上三川	矢野	54人
5	4/24	ホワイトボード防災講義	ホワイトボード・共催	市内	青木	4人
6	6/14・15	民ボラ内部企画「創業者に聞く」	民間ボランティア・市民活動推進者会議	大阪	矢野	30人
7	7/6	ボランティア入門講座	さくら市生涯学習課	さくら	矢野	15人
8	8/8	こぶしの会・管理者研修会「ボランティア・コーディネーション」	(社福)こぶしの会	市内	矢野	15人
9	9/3	荒川区社協「災害NPOの活動」講義	荒川区社協	東京・荒川	矢野、青木、柴田	50人
10	9/22	防災士研修会	防災士機構	さくら	矢野	50人
11	9/20	災害ボランティア養成講座	下野市社協	下野	矢野	30人
12	10/1	言論スタジオ「被災地支援とNPOの信頼」	言論NPO	東京	矢野、塚本	—
13	10/5	「個別SOSの解決ととちぎVネット」よりそい研修講義(矢野/千葉)	人・まち・暮らしサポートネット千葉	千葉	矢野	30人
14	10/19	「FB・Vネット」説明会	めっけの会	事務所	矢野、徳山	6人
15	10/25	パネルディスカッション テーマ「女性と貧困」	宇都宮市男女共同参画推進センター	宇都宮	青木	40人
16	10/27	震つな・一般公開講座	震災がつなぐ全国ネットワーク	名古屋	矢野	30人
17	11/12	大田原市職員内部研修「HUG」	大田原市役所	大田原	矢野、青木	30人
18	11/16	「ファンディングについて」講義	スペシャルオリンピックス日本・栃木	市内	矢野	15人
19	11/24	地区防災講座「HUG」	城山地区コミュニティセンター	市内	矢野、青木	40人
20	11/26	野木町教職員研修「HUG」	野木町教職員組合	野木	矢野	15人
21	12/10	卓話「FB・生活困窮者について」	陽北ロータリー	市内	矢野	30人
22	12/14	災害VC設置訓練	鹿沼市社協		矢野、菊池、徳山	30人
23	1/28	見守り隊養成研修「災害時要援護者」	壬生社協	壬生		60人
24	2/2	防災ボランティア講座「HUG」「トイレ作り」講座	大田原社協	大田原	矢野、菊池	45人
25	2/12	男女共同参画の視点から防災「HUG」、	男女共同参画ネットワークさの	佐野	青木、柴田	20人
26	2/26	地域防災講座「HUG」	戸祭地区コミュニティセンター	市内	青木、菊池	25人
27	3/1	「災害に学ぶ」災害の現場から	全国要約筆記研究会	市内	青木	20人
28	3/4・11	岩舟社協災害ボランティア養成講座①「DIG」②「HUG」	岩舟町社協	岩舟	青木、柴田	40人
29	3/19	災害講座・HUG、災害VC立上げ	那須塩原市社協	那須塩原	矢野、青木	40人
30	3/26	震つな・移動寺子屋	震災がつなぐ全国ネットワーク	東京	矢野	30人

事業報告 B.【フードバンク宇都宮】

(1)フードバンク事業(生活困窮者の支援・福祉施設への食品配達)

①フードバンク活動

賞味・消費期限の切れていない食品を無償でいただき、賞味・消費期限内に福祉施設や困窮者へ食品を配るフードバンク活動はフードバンク宇都宮の基幹活動である。

2013年度は、事務所1階にフードバンク倉庫と事務所を置き、さらに「フードバンクで支援した人たちの居場所」機能を追加した。その後、この居場所の存在が医療福祉機構（WAM）に認められ、助成金を受けることができた。

②大田原支部の本格稼働

大田原支部は2013年4月から大田原市黒羽の倉庫の使用許可が得られ本格的稼働となった。直接的な個人支援と社会福祉協議会との連携の2方向の活動を予定していたが、個人からの情報が直接入ってくる件数が少ないので現在は大田原市、那須塩原市、那須町の社会福祉協議会に相談しに来た個人に対して支援している。福祉施設等については、本会の持つネットワークを中心に食品等を配達している。

③フードドライブの実施(1回)

個人の家庭を中心に食品の寄付を募るフードドライブを6月に実施した。約100kgの食品が集まったが、「フードドライブ」の新鮮味が薄れマスコミには取り上げられにくくなった。一方でチャリティーウォーク56.7の宣伝効果が表れ、個人の食品寄贈が増えたため、12月のフードドライブは取りやめた。

④県外のフードバンクとのネットワーク構築(外部会議)

東京のセカンドハーベスト・ジャパンを中心とした全国フードバンクのネットワークが構築され、全国で40をこえる団体が存在するようになった。しかし、フードバンクの数が増えるだけ食品事故の可能性が高くなり、フードバンクそのものの信用性が傷つくことが予想される。リスク回避のため、セカンドハーベスト・ジャパンアライアンス（以下2HJA）という法人を設立し食品事故防止のために「食品衛生管理のガイドライン」の作成や「フードバンク団体の活動基準」を決めていくことにした。本会暫定的に2HJAに加盟し、月1回行われるネットミーティングに参加した。

⑤県内の反貧困ネットワーク等の貧困者支援者との緩やかな連携

フードバンクで活動すると困窮者と接することが多くなる。食べ物が無いことは多くの問題の一つであり、様々な困難を解決するために多様な団体と活動を提携した。互いの得意分野で困窮者を支援するとともに、炊き出しを8月と12月に宇都宮駅東公園で共同で実施した。今期から本会と関係のある炊出しのボランティアを本格的に募集して食材の部分的提供や相談コーナーを受け持った。課題としては、母子家庭に対して呼びかけを行ったが、効果的な周知方法がなく参加がなかった。

●入庫食品数：入庫 14, 245kg / 出庫 13, 323kg	
・食品を配達した施設(団体): 61 施設 / 55 回 ・個人に食品を支援した数: 52 世帯 / 67 回 ・路上生活者人数: 21 人 / 55 回	・社会的包摂サポートセンターからの要請: 2 世帯 / 5 回

(2)ホームレス(生活困窮者)の支援 (生活困窮者の支援)

①夜回り活動・食事会

フードバンク事業を始めると同時に付帯的に始めたホームレス支援の活動ではあったが、今期も夜回り、昼回り活動会を継続して実施した。夜回り活動は毎週水曜日 21時からボランティアとともに実施した。

②生活保護受給の支援

夜回り等で目視できる路上生活者の数が、活動を開始した当初より少ない事を実感する。これは推測ではあるが、市内にある無料低額宿泊所の存在が路上生活者を吸収していると思われる。その代わりに、社会福祉協議会やハローワークに相談に行く相談者に対し当会を紹介しその人を受入れる事が多くなった。紹介され訪れてきた多くの方は、東北から何の当てもなくさまよっている人や栃木県の地方都市から県都に仕事を求めてくる、お金と住む場所が無い人達である。本人から事情を聞き、特に行く当てが無く宇都宮市に住みたいと主張する人については、生活保護につなげそれから今後の人生の立て直しを行ってももらうことにした。

③居場所の提供（独立行政法人医療福祉機構の助成金により実施）

生活保護を受給者や困窮者の多くは社会の中で居場所がない。共生ビル1階のフードバンク倉庫を居場所として開放する事業を医療福祉機構の助成金を得て「フードバンクを媒体とした困窮者支援事業」を実施した。フードバンクで助けられた当事者たちのセルフヘルプの場と、彼らがフードバンクでボランティアをすることにより、感謝され全員には程遠いが自己肯定感を取り戻すきっかけの効果を生みだした。結果的に就労につながったものも数名存在した。

彼らが口々に言うことは、「人づきあいが苦手で避けてきたが、人とのつながりがなければ立ち直ることは難しい」ということである。今後この事を体系的にする整理されれば、困窮者支援のケースとなる可能性がある。

（課題） 居場所の人間関係の調整ができる人が当事者の中にいないとなかなかまとまらない。この辺のボランティア育成が課題である。

夜回り

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	4	4	5	3	4	5	4	4	4	4	4	49
訪問先人数	16	20	19	23	16	20	20	16	12	12	12	12	198
訪問者	8	8	8	8	7	14	12	16	15	12	12	11	131

昼回り

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数									1	1	2	1	5
参加者									3	3	6	3	15

困窮者対象野外炊出し（反貧困ネットワーク等と共同で実施：駅東公園）

月	8月	12月	合計
回数	1	1	2
参加者	88	92	180

緊急で生活保護受給につなげた人（ホームレス状態でVネットに直接支援を求めた人のみ）

氏名（仮名）	年齢・性別	実施時期	原因
定岡さん	50代・男性	6月	自分の意志が弱く、一人で決められない
江藤さん	60代・男性	6月	ギャンブル依存症
大林さん	50代・男性	7月	失業
矢部さん	40代・男性	9月	失業
佐原さん	40代・男性	11月	失業
奥山さん	50代・男性	11月	失業
長谷部さん	40代・男性	1月	失業

(3)ファンドレイジングの強化(チャリティ・ウォーク 56.7 の実施)

フードバンクへの寄付集めと広報のため、11月9・10日に寄付イベント「チャリティ・ウォーク 56.7」を開催した。結果 2,107,287 円の寄付があり、チャレンジャー59人、送り出しウォーク 42人、ボランティア約 70人の参加があった。

運営のために4月から実行委員会を組織し、10回の実行委員会のほか、事前イベントとして「ためし歩き」を2回実施、さらに各団体・個人のファンドレイジングイベントが行われた。また、特設webサイトを制作し、フードバンクの周辺にいる困窮者の実情やチャレンジャーの紹介などの広報活動をした。さらに旗のづくりのための書道ボランティア、縫い子ボランティアなど、イベントを盛り上げるような仕掛けを作った。

チャリティ・ウォーク 56.7 ～みんなで作るセーフティネット＝フードバンク～ 2013/11/9-10（宇都宮。今市・中禅寺湖）	参加 ◎56.7=56人、◎送り出し 5=40人 ◎ ボランティア 70人
--	--

<p>1、開催趣旨</p> <p>本会が行うフードバンク活動への資金造成(寄付)とフードバンク活動の理解促進のために1泊2日でチャリティイベントを実施する。寄付を集めることはもちろんだが、以下のような困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることで、「私たち自身がセイフティネットを作っていく」必要性を理解し、またこうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安定な就労をし、雇い止めと同時に職と住居を失うワーキング・プアが存在 ・パートを掛けもちしながら働く貧困線以下の母子家庭の窮状 ・病気、精神疾患になり年金も少なく、「人の縁」に恵まれないなど、経済的にも精神的にも困窮、孤立している高齢者の窮状 ・生活保護が急増し、財源的に一定の限界があり、それらは給付制限となるなど社会保障には一定の限界があること。 ・生活保護では困窮者の全部は救えておらず、事実上生活保護以下の収入で暮らしをしている人が数倍(推計)いること、等。 	
<p>2、日時・場所</p> <p>2013年11月9日・10時～10日・14時頃(雨天実施) 出発:宇都宮市二荒山神社前 → 経由:宇都宮市民憲章記念長岡公園 → 到着:中禅寺湖畔鳥居前 1日目の宿泊地は今市市街地</p> <p>3、内容</p> <p><メインイベント:①チャリティ・ウォーク 56.7></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市二荒山神社から日光市中宮祠までの56.7kmを1泊2日で歩く。 ・団体/1チーム3～5人、参加費(寄付):参加費30,000円+寄付30,000円以上(チームでを期日までに集める)。 ・個人/参加費10,000円+7,000円以上の寄付 ・チームやチャレンジャーは、各自で寄付者を募る簡単な催しを行い、実行委員会事務局とともに表出する。各チームが独自にファンディングをすると同時に、各種メディア、SNS等で事務局に直接寄付をいただくようにする。 ・またチームや個人はJust Giving等 ネット上の寄付サイトにも登録する。 <p><サブイベント:②送り出しウォーク 5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・56.7kmチームを送り出すためのサブイベントとして、宇都宮市二荒山神社から長岡公園までの往復5kmを一緒に歩く。公園でフードバンク等の簡単なスピーチやボランティアによる出し物を行い、盛り上げる。 ・個人。一口1000円以上の寄付 ・一緒に歩いていくとともに現地に集合してもよい。 <p>※上記「参加費」はすべて寄付扱いとする。また「寄付」はなるべく自分以外の人から寄付を募ってくる。税制優遇あり。</p> <p>4、広報</p> <p>WEBサイトによる広報。①チャレンジャーのイベントを逐次公開 ②フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する(毎週3回更新)</p>	<p>5、募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 ①チャリティ・ウォーク 56.7…100人(団体:5チーム、個人:50人) ②送り出しウォーク 5…100人程度。 ・ボランティア…100人 ・宿所提供…自治公民館、体育館などルート上の公共か民間施設(25km地点、30km地点に設置。今市を予定) ・協賛企業…参加者への支援飲料、食品など <p>6、目標金額:200万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費15万円+各チームの寄付50万円+事務局直接寄付135万円(特にクレジット寄付に対応する) <p>7、開催までの日程(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:11月9日、10日 ・事前準備 5月 募集要項決定・協力者募集(個人・企業・団体等) 6月 参加者募集、参加チームによるファンディングスタート(56.7kmチームについては挫折回避のため、寄付集めの助言等をするサポーターが必要。当日の健康状態や進行状態等もサポートする) ・8/7(水)19:00 実行委員会 ・8/15 第一次締切 ・8/21(水)19:00 実行委員会 ・8/25(日)説明会 ①13:00、②17:00(2回実施) ・9/1(日)試し歩き(その1) ・9/11(水)19:00 実行委員会 ・9/12(木)説明会②19:00～ ・9/15 第2次締切 ・9/25(水)19:00 実行委員会 ・10/6(日)試し歩き(その2) ・10/9(水)実行委員会 ・10/21(水)実行委員会 ・11/4「送り出しウォーク 5」締切
<p>実行委員会実施日、4/2、5/18、6/8、6/2、7/10、7/24、8/7、8/21、9/11、9/25、10/9、10/23、11/16CW打ち上げ</p>	

事業報告 C.【災害ボランティア・オールとちぎ】

(1)東日本大震災の救援・復興支援活動(災害救援および復興支援)

今期は東日本大震災の現地事務所を4月で閉所し、同時に復興支援事業を大幅に縮小した。県外は石巻・尾崎地区との交流事業とまけないぞう事業(気仙沼、いわき、矢吹)の2つにしぼって活動した。県内では、とちぎ暮らし応援会の運営協力をおこなった。

また年度後半からは、県内でのまけないぞうの販売に力を入れた。

<p>4月●キャンプ八郎衛門閉所式 ●足湯V(石巻・三反仮設)</p> <p>5月●被災地調整(気仙沼・唐桑・石巻/青木)</p> <p>9月●気仙沼会員向けボラ(千厩・小泉・小原木)</p> <p>10月●石巻調整(青木)</p> <p>11月●一ノ関・気仙沼・石巻市尾崎訪問(青木)</p>	<p>12月●矢吹仮設訪問(白河避難者へ物資届け/門馬他6人)</p> <p>1月●気仙沼・尾崎訪問(青木・小野・滝口)、新潟雪かきV ●焼き牡蠣大会(石巻/24人)</p> <p>4月●石巻尾崎・焼き牡蠣大会(青木他9人)</p>
---	--

①石巻・尾崎地区の牡蠣養殖漁業者との交流プログラム(宮城県・石巻市)

まけないぞう事業と同様に、被災地とつながれる商品やプログラムを実施した。石巻・尾崎地区の牡蠣養殖漁業者との交流プログラムでは一般公募企画と会員限定企画の2種類を作り、足湯ボランティアや焼き牡蠣大会などの現地訪問イベントを実施した。また、現地の牡蠣の直販をおこなった。

夏ボラ IN おのさき(漁業体験的ボランティア) 8月31日(土)	参加 13人
<p>震災から2年半の被災地に行って、漁業体験的ボランティアで交流しませんか。牡蠣の養殖が盛んな長面浦に面した石巻市尾崎地区。津波で流されたイカダの修復作業や牡蠣のクリーニング作業でボランティア活動している地域です。今回は、牡蠣の稚貝を海に下ろすお手伝いや草取りなどのボランティア。ボランティア体験しながら、被災地の“いま(現実)”を見に行き、尾崎の漁業を応援しましょう！</p> <p>●開催日：8月31日(土) 9:00 上品の郷合流 トイレ前集合</p> <p>●行き先：宮城県石巻市尾崎地区他</p> <p>●内容：牡蠣の稚貝を海に下ろす作業や草取り。(鎌ある人は持参) ・雨天時や波が高い場合は屋内作業(翌日延期、中止もあり)</p> <p>●持ち物：作業が出来る格好(手袋、帽子、長靴)、着替え、昼食</p> <p>●定員：12人(最低開催人数4人)</p>	<p>●移動手段：現地集合・解散。宇都宮から乗合希望者は相談を交通費2,000円)。</p> <p>●参加費：Vネット会員1000円、会員外3000円。(Vネット)</p> <p>●締切：8月24日(土)</p> <p>●申込：とちぎボランティアネットワークに電話で(日程)</p> <p>5:00 宇都宮発</p> <p>9:00 石巻市・道の駅「上品の郷」合流</p> <p>9:30 尾崎着 牡蠣を海に下ろす作業</p> <p>昼食</p> <p>14:30 作業終了</p> <p>15:00 被災地を視察しながら帰路(希望があれば)</p> <p>20:30 宇都宮着(予定)交通状況による</p>

焼き牡蠣大会 ①1月19日 ②3月24日(日)10:40~13:30	参加 ①26人 ②11人
<p>1、①1月19日(日) 3月24日(日)10:40~13:30</p> <p>2、参加費：3000円(おにぎり付き) 定員20人(メ切り：3月16日)</p> <p>3、小・中学生1000円※未就学児：無料</p> <p>4、場所：石巻市尾崎(おのさき)</p> <p>5、内容・日程</p> <p>10:00 道の駅上品(じょうぼん)の郷(さと) トイレ前に集合</p> <p>10:40 尾崎着</p> <p>10:50 牡蠣稚貝付け作業もしくは牡蠣大会準備</p> <p>12:00 焼き牡蠣大会開始 牡蠣は食べ放題</p> <p>13:30 片付け後、尾崎出発</p> <p>14:00 道の駅解散(予定)</p>	<p>6、その他・宇都宮より乗合で参加希望者は、ご相談ください。交通費別途。</p> <p>7、持参品：洗浄作業は、汚れるのでカップやエプロン、手袋、長靴等。</p> <p>※尾崎地区は、とちぎボランティアネットワークが家屋の泥出しや牡蠣養殖手伝いなどのボランティア活動させていただいた関係で、今回の尾崎牡蠣大会を企画いたしました。“牡蠣を食べて被災地支援”にご参加下さい。</p>

(2)まけないぞう事業(災害救援および復興支援)

「まけないぞう」は全国から寄付いただいたタオルを被災者のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売するもので、売上の25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になっている。気仙沼ではぞうの作り手のお母さんたちが集まって「まけないぞう大使」と称して隔月で集荷・出荷作業をおこなった。当期は**6,270頭、251万円**の売上となった。また、まけないぞうの販売では、ボランティアが売り子ボランティアとして参加している。(同事業は気仙沼市、いわき市、矢吹町で実施)

まけないぞう販売・場所・イベント	
<p>4月●宇都宮・浄鏡寺</p> <p>5月●那珂川町・乾徳寺、アースデイ那須</p> <p>6月●精神障害者Vフォーラム全国大会、宇都宮・光琳寺</p> <p>7月●高根沢「熱気球ふれあい」</p> <p>8月●南那須図書館、河内地区ふれあい祭り、見丘会納涼祭</p>	<p>10月●アジア学院収穫祭、バルティ</p> <p>12月●「キャンドルライト」</p> <p>1月●グラクソスミスクライン、防災フォーラム、宇都宮未来クラブ、ろまんちっく村</p> <p>3月●マロニエプラザ</p>

(3)緊急救援・復興支援事業(災害救援および復興支援)

①西伊豆水害救援活動

西伊豆町で7月18日に発生した水害について本会理事を派遣し調査・復旧にあたらせた。チーム鹿沼の4人とともに西伊豆町宇久須地区で復旧作業をした。

②一関・雫石・南陽・秋田・鹿沼水害救援活動

本年は、豪雨水害が各地で多発した年であった。8月には、岩手県一関市、雫石市の水害現場に職員を派遣し視察を行う。鹿沼市で発生した水害では、現場にボランティアを派遣し救援活動を行った。7月〇日発生、山形県南陽市へも、ボランティアを派遣、同時に救援活動支援として街頭募金活動も行った。秋田県鹿角市、大館市で発生した水害現場へは、「震災がつなぐ全国ネットワーク」として全社協他の団体と現地へ視察に派遣した。

③山口・島根・京都水害・フィリピン台風救援活動の支援

救援活動の支援として、宇都宮市内にて街頭募金活動を行った。宇都宮未来クラブの小中学生が街頭募金に参加してくれた。

7/18-19/西伊豆水害(柴田・他5人) 8月一関市災害調査・対応(青木)、鹿沼市社協災害現場調査(青木)、山形南陽災害(青木)、岩手・雫石町災害VC、矢巾町VC調査視察(青木)、秋田鹿角市災害、大館市災害VC調整(青木)	8/10-11 山口・島根水害街頭募金 9/28 京都水害街頭募金 11/24 フィリピン台風街頭募金
---	---

(4)啓発・普及活動(ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

①災害・防災に関する講師の派遣

「男女共同参画の視点での避難所運営」に関する講座に招かれることが多かった。東日本大震災での教訓が防災意識の改善に寄与したと思われる。今年も障害者の当事者団体であるNPO法人自立生活センターとちぎとともに、災害時の障害者の避難を含めた被災状況についての勉強会を毎月実施した(避難訓練1回、AED講習会1回実施)。

②ネットワーク・研修会・会議への参加

震災がつなぐ全国ネットワークの会議・講座の他に、今期は東京都社会福祉協議会の「東京災害ボランティアセンター運営検討会」委員として9回の会議に参加した。荒川区社協など都内の団体と具体的な交流も始まった。

他に静岡県ボランティア協会が6年前から実施している「静岡県内外の災害ボランティアの広域図上訓練」に3人が参加した。国の会議としては内閣府「防災ボランティア活動検討会」に出席した。

5 ●震つな3 (総会・定例会、移動寺子屋) 6 ●東京災害VC運営検討会 8 ●東京災害VC運営検討会 10 ●東京災害VC運営検討会 (矢野/東京)、震つな役員会 (矢野/名古屋)・定例会(矢野他15人位) 11 ●東京災害VC運営検討会・人材育成部会 (矢野)	12 ●東京災害VC運営検討会・人材育成部会(矢野他6人)、内閣府防災ボランティア活動検討会 (矢野ほか30人) 1 ●東京災害VC会議(人材育成部会)2 2 ●東京災害VC検討会(矢野) 3 ●東京災害VC会議 (矢野/東京 VC)、静岡県V協広域図上訓練(●)
---	---

③定例会議

オールとちぎ会議を年間で25回開催した。定例会議は隔週水曜日午後7時からで、夕食を一緒に作って食べてから会議にしている。一人200円以上のカンパで職員、ボランティアが交代で作る。

(4)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助する (P●「基金運用規定」による)。

フィリピン台風NGO活動支援金は、街頭募金や会員等からの寄付が**293,211円**となり、CODE＝海外災害援助市民センターへ寄付した。街頭募金ではとちぎYMCAとともに実施した。

東日本大震災の寄付は**861,445円**となった。今期は「復興支援活動サポート助成事業」は行わなかった。期末の災害寄付残高は148万円となったので、次の災害救援のための留保など、使途の検討が必要である。

事業報告 D.【NPO活動推進センター】

(1)NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

NGO/NPOの活動推進のため、市民活動団体と協働して講座等の企画実施、イベントの協力、検討会や研究会の設置と協力、提言書の作成、基金の預託などをおこない、他のNGO/NPO等からの相談を受け、課題の解決を図る事業が、徐々に認定NPO法人の支援に特化していくことに力点を変えている。また、資金支援もファンドレイジングを活性化するためとちぎコミュニティ基金を通じた支援を行った。

① SAVEJAPAN プロジェクトの共同運営

SAVEJAPAN プロジェクトは、(株)損保ジャパンが行っている社会貢献活動の一つで、環境を保全（生き物が住みやすい環境づくり）をするプロジェクトである。損保ジャパンと日本 NPO センターが中心になり全国 47 都道府県で実施されており、栃木県では本会とNPO法人オオタカ保護基金、那須自然学校で実行委員会を組織して実施した。

プロジェクトのテーマは、絶滅危惧種である猛禽類の鳥サシバの飛来数が市貝町で日本屈指であること、同時にサシバが繁殖する環境が耕作放棄地が増えることで失われていく可能性が高いことから、「サシバの里の保全活動」に取り組むことにした。場所は市貝町文谷にある耕作放棄地になった谷津田で実施した。

年度内に3回実施した。6月1日と10月12日に豊かな生物や植物の自然観察会と草刈等の軽作業を行い、12月15日にサシバと人間が共生することにより豊かな地域づくりに取り組むヒントとするシンポジウム（市貝町役場多目的ホール）で行った。

1月にはSAVEJAPANプロジェクトの成果報告として、東京の損保ジャパン本社ビルで「CSR ダイアログ」が開催され、全国の実施団体を代表してオオタカ保護基金が活動事例を発表した。

参加人数(プロジェクトの参加目標は年間100人)

回	実施日	参加人数	実施内容
1	6月1日	35人	自然観察会・保全作業
2	10月12日	25人	自然観察会・保全作業
3	12月15日	65人	シンポジウム
	合計	125人	

(成果と課題)

プロジェクト実施の成果は、市貝町役場の町おこしとオオタカ保護基金で進めてきたサシバの里保全活動が合致し本格的にサシバの里市貝町の町おこしが本格的に動き始まったことである。次年度の市貝町の事業に取り組み、道の駅とサシバがシンクロしてオープンすることになった。サシバの生息する環境を守るとは地域全体の自然環境を守り、最後には人間の生活をする場所を守るという意義の深いものであることを実感した。

課題はまだ市貝町に住む多くの人たちがサシバのことには関心が薄いので、住民に広く伝えていく活動が次年度の課題となった。

②NPOの研修事業

ア)「栃木市民活動フォーラム 2014—ファンドレイジング栃木—」の実施

栃木県の「NPOマネジメント推進事業」の委託を受けて、ファンドレイジングに関する事例発表会を開催した。本会がNPOの研究集会として、15年前から不定期に開催している第8回の栃木市民活動フォーラムとして実施した。県内から6つの事例(うち本会事例2)をあつめ、寄付を中心としたNPOの資金調達の事例を集めた。

同時にとちぎコミュニティ基金の冠基金（花王ハートポケット倶楽部・地域助成、とちぎゆめ基金助成）の贈呈式や2次選考会も合わせて行った。NPO30団体、67人が集まった。

栃木市民活動フォーラム 2014「第1回ファンドレイジング栃木」	2月8日 10時～16時	参加 67人
----------------------------------	--------------	--------

<p>(テーマ) 栃木のNPOの寄付・資金調達、ボランティアや仲間のまきこみ、「共感」による社会へのインパクトを発表する県内NPOの切磋琢磨の大会。他団体の事例を見て、自分の団体のファンドレイジングと組織展開を考える。 (内容・講師名) 1、基調講演■10:45-11:15 「ファンドレイジング栃木の楽しみ方」 講師：矢野正広(認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク・宇都宮・認定ファンドレイザー) ファンドレイジング栃木の目的は交流と相互研鑽であること。またファンドレイジングの意義、寄付基礎知識を解説した。</p>	
<p>2、ファンドレイジング成果6事例の講義 A-1■11:20-12:00 講師：川端秀明さん(一般社団法人みんなのとしょかん・足利) ■図書館づくりでコミュニティづくり。広がる秘訣と、「寄付=共感」の販促法…… 被災地で静かに着実に広がっている図書館づくり。みんなで作り、みんなで運営する、そのなかでできる共同性をコミュニティの核として捉える。被災地からさらに全国の地域づくりへと「みんなのとしょかん」が展開していく秘訣をお話します。 (2013/12) 寄付 2534 万円、45 万冊、13 図書館、など。 B-1■11:20-12:00 講師：徳山篤さん(認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク・宇都宮) ・日光まで 56km を 1 泊 2 日で歩く。そのために自分達で寄付 3 万円以上を集めて参加するチャリティイベントの魅力とは…… フードバンクを知らせ、寄付を募る「チャリティウォーク 56.7」を 11 月に初開催。寄付 210 万円、チャレンジャー 59 人、ボランティア 90 人…と人も巻き込んで、達成感も超最高！ 走ったり歩いたり寄付イベントの魅力をお話します。 A-2■13:00-13:40 講師：塚本竜也さん(NPO法人トチギ環境未来基地・益子) ・寄付集めは仲間集め。苗木育てパートナーと植林ボラと住民と寄付者が、希望をつなぐ…… 津波で枯れた海岸林をみんなで再生する「苗木 for いわき」。1000 円寄付でマツの苗木 5 本を育て、育苗のクロマツパートナーは小学校・幼稚園・企業・個人が、林地伐採と整備は地元と栃木からのボランティア。企業からの寄付も増えています。 (2013/12) 寄付 312 万円、パートナー 72 団体、整備ボランティア 1,436 人 B-2■13:00-13:40 星俊彦さん(認定NPO法人青少年の自立を支える会・宇都宮) ・福祉施設運営系NPOの寄付集め。コンサートで広げ、バザーで会員・寄付者に……</p>	<p>16 年前の設立以来、毎年行っているコンサートとバザー。事業系NPOは現場へのボランティアの導入が難しいものです。しかしこの会はボランティアの出番を作ります。それがコンサートとバザー。そしてボランティアが会員になる。直接収益と人集め、そして社会課題に触れ、考えてもらう契機をどうつくるかを語ります。 A-3■14:00-14:40 討論会：みんなで考える寄付集め、支援者集め、共感のコミュニケーション。 ・司会：土崎雄祐さん(真岡・准認定ファンドレイザー) ・登壇：仮認定NPO法人まごの手(佐野)、認定NPO法人サバイバルネットライフ(小山)、認定NPO法人チャイルドラインとちぎ(宇都宮)など 認定NPO法人などによるそれぞれの自己財源の努力、共感集めトークを行います。「普通の地域の団体が不断の努力として何をすべきか」がテーマです。 B-3■14:00-14:40 講師：矢野正広さん(とちぎコミュニティ基金・宇都宮・認定ファンドレイザー) ・いろいろなNPOと一緒に春のハイキング寄付。「社会が変わる希望が持てる不思議イベント」の試行錯誤を公開…… 春の野山・街を歩いて寄付をする爽やかなイベント。初回の寄付額 3.5 万円から徐々に 90 万円になるまで、どんな工夫をしてきたか、苦節 5 年をお話します。キーワードは戦略性です。</p> <p>3、助成金 2 次審査会 ・とちぎコミュニティ基金の「とちぎゆめ基金・NPO助成」の 2 次選考会を実施した。4 団体がプレゼンテーションを行い、来場者が投票した。 ■助成金審査会・プレゼンテーション(110:20-10:40、選考結果・贈呈式は 14:50-16:20) ・発表団体 ①NPO法人とちぎユースワークカレッジ(宇都宮)、②NPO法人サバイバルネット・ライフ(小山)、③一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター(宇都宮)、④NPO法人チャレンジド・コミュニティ。 ※「ファンドレイジング栃木」終了後の 14 時 50 分から同時開催として、選考結果発表と贈呈式を行った。</p>
<p>前日講座 2014 年 2 月 9 日 10 時～14 時 40 分 1、「ファンドレイジングの基礎知識」(10:00-11:30) 講師：矢野正広(認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク・宇都宮・認定ファンドレイザー) 2、「エクセレントNPO調査からみる県内NPOのファンドレイジング」 講師：土崎雄祐(とちぎコミュニティ基金/NPO法人まわた・真岡)</p>	<p>参加 21 人</p>

③NPO法人会計基準」の普及調査

2011年の新・認定NPO法人制度成立とともに「NPO法人会計基準が」内閣府の「NPO法人設立の手引き」に正式に採用されることになった。年度末になり本会とソリマチ(株)の共催事業として「NPO法人会計基準・実践講座」を企画し4月17日に実施した。参加は25人だった。

④NPOに対する備品・機器の貸出事業

事務所を置く余裕のないNPOに対し、机1つ分のスペースを貸出し、活動拠点の応援をした。またコピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。徐々に独自事務所をもつ団体も増え、スペース貸しを行うNPO支援センターも増えたので事業の見直しが必要であろう

■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

⑤コーヒーサロン事業

県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図った。身近なスゴイ人・面白い人を紹介するいわば「耳学問の場」である。

今年度は本部で行うコーヒーサロンのほかに、**県北コーヒーサロン**として大田原市で**2回サロン**を行った。またサロンの内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載した。

日時	講義名・内容	話し手	参加数	掲載号
7/26	一人親家庭の学習支援「寺子屋いっぽ」	石原恵子・寺子屋いっぽ 代表	10人	202号
9/29	居場所「なじみ庵」	飯島恵子…NPO法人ゆいの里●県北サロン	9人	203号
10/25	ギャンブル依存症からの回復	G Aチカ、アツシ	7人	204号
2/28	罪を犯した少年のその後と関わって	小野幹夫(大田原) ●県北サロン	15人	205号

⑥委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。今期は特に**日本ボランティアコーディネーター協会の全国大会(JVCC)**が2月に栃木で実施されることになり、本会が共催団体となったほか、実行委員として二見理事長以下、理事・職員・運営委員・会員が多数参加して運営協力した。

(2)『とちぎVネット・月刊ボランティア情報』の発行事業 (ボランティアとNPOに関する事業)

『月刊ボランティア情報』を隔月で**900部、年6回発行**した。**編集方針、内容、発行体制、頻度のすべてを見直した**。本会の情報誌はこれまで県内のボランティア・市民活動の情報をあつめ「活動を選ぶ」情報誌であったが「活動者同士の交流」に力点を置くように編集方針を変更した。この20年間でWEBでの市民活動情報入手ができるようになるなど情報環境の変化がある。また紙面もカラーにし発行数も減らした。

いっぽうでWEBによる本会の活動情報提供の提供を開始し紙面に再録するなど紙媒体と連動するようにした。職員、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員1人による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
5-6月	200	サロン再録/まごの手	11-12月	203	報告/SAVE JAPAN プロジェクト
7-8月	201	報告/寄付ハイク	1-2月	204	報告/チャリティウォーク56.7
9-10月	202	サロン再録/寺子屋いっぽ	3-4月	205	会員通信、報告/チャリティウォーク

①新聞情報収集・データベース化

V活動、市民活動の情報を提供するため、新聞3紙から記事を要約しデータベース化するとともに、記事のダイジェストを『月刊V情報』にも掲載した。ボランティア2人の毎週の切り抜きにより実施した。(新聞切り抜き隊：大野幹夫、鈴木和子)

②原稿の執筆

本会が実施する事業について、新聞・学会雑誌等からの原稿依頼に対し役職員が執筆、寄稿・投稿した。

回	月日	「タイトル」掲載紙・出版社名	執筆者
1	2013/5/1	「寄付ハイク」でする、募るしつけ・寄付するしつけ「ファンドレイジングジャーナル16号」日本ファンドレイジング協会	矢野正広
2	2013/10/15	自分たちでつくるセイフティネット・フードバンク「栃木保険医新聞」栃木県保険医協会	徳山篤

(3)震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)への加盟、運営 (ボランティアとNPOに関する事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク(略称=震つな)」へ加盟し、職員を同ネットワークの顧問として業務にあたらせた。

震つなを経由した日本財団ROADプロジェクトの現地活動拠点「キャンプ八郎右衛門」は、4月で閉鎖し気仙沼での活動は終了した。

(4)「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」の運営 (ボランティアとNPOに関する事業)

全国の市民活動やV活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第30回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」を6月15・16日に大阪で実施した。企画・準備のため本会職員1人を派遣し、年度末までに5回の会議に参加した。

2013年6月15-16日	第30回 民ボラ in 大阪 (全国民間ボランティア市民活動推進者企画戦略会議) テーマ：市民セクターの次なる10年	参加者 45人
公開企画内容 ①「市民活動の推進団体の危機管理体制、緊急対応を考える～災害時に求められる役割と機能を果たすために～」 ●国会では災害対策基本法の第二弾の改正の議論が進められています。日頃から ボランティアや NPO 活動の推進に取り組む推進団体は、実際に災害が起こったとき、どのような役割を果たすべきか、どう取り組むべきかということに目が行きがちです。しかし、そもそも推進機関自身は、どのようにして事業を継続させる体制を組めば良いのでしょうか？ 今回は市民活動の推進機関のBCP (Business Continuity Plan：事業継続計画) について考えます。 ●2013年6月15日・土曜日・10時00分～12時00分 ●桑原英文さん (コミュニティ・4・チルドレン代表理事)		
②「市民セクターの次なる10年～ドロッカー・未来の提言を題材に、市民活動の推進の今後のあり方を考える～」 ●P. ドロッカーは、日本や世界の未来を考える上で「社会組織」の存在の重要性を常に強調してきた経営哲学者である。彼が残した様々な提言を紐解き、参加者によるグループディスカッションを通じて、「市民セクターがなすべき次10年の仕事」について市民活動を推進する視点から考えます。 ●2013年6月15日・土曜日・13時00分～15時00分 ●田中弥生さん (日本NPO学会会長、「ドロッカー2020年の日本人への予言」著者)		
全国民間ボランティア市民活動推進者企画戦略会議 (50音順、茨城NPOセンター・commons/大阪ボランティア協会/静岡県ボランティア協会/世田谷ボランティア協会/東京ボランティア・市民活動センター/とちぎボランティアネットワーク/富士福祉事業団/山梨県ボランティア協会)		

事業報告 E.【とちぎコミュニティ基金(とちコミ)】

企業・市民がNPOを支えるための「資源循環の仕組み」と「NPO側の情報公開」を促進するため県内中間支援型NPO7団体による共同事業として「とちぎコミュニティ基金」の運営およびファンドレイジングを行った。5月にNPO春の合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」を栃木市で行った。街歩きコースと田舎歩きコース、大平山頂往復ランコースを設けた。結果的に**参加81人(寄付者総数115人)、900,250円**の寄付となり、前年度の39万円から飛躍的に増額した。(なお2013年度の寄付ハイクも5月10日に実施し、寄付総額は135万円となっている)下表はその経年変化である。ようやく寄付イベントが定着したと思われた快挙だった。

回	日時・場所	参加NPO数	参加数/寄付のみ数	寄付総額 (内寄付のみ)
1	2009・6(日光・雨で中止)	18団体	0/15	33,500円(33,500円)
2	2010・5(日光丸山)	20団体	47/11	184,000円(35,000円)
3	2011・5(矢板・高原山)	6団体	16/5	76,000円(12,000円)
5	2012・5(栃木2コース)	18団体	91/28	390,450円(77,000円)
6	2013・5(栃木3コース)	15団体	81/115	900,250円(350,000円)
7	2014・5(栃木3コース)	12団体	165/94	1,350,200円(544,700円)

冠基金は「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」を実施し、6団体に**総額49万円**の助成をした。さら

に今年は「とちぎゆめ基金」の助成も実施し、4団体に70万円の助成を行った。

助成金の募集・選考会の運営はとちぎコミュニティ基金で行い2月9日に実施した「ファンドレイジング栃木」と同時開催で行った。

■とちぎコミュニティ基金とは

1.とちぎコミュニティ基金の仕組み

とちぎコミュニティ基金の仕組みは大きく、寄付システムと、NPO情報公開・信用システム(NPO データバンク)の2つがあります。原則として同基金が集めた寄付は、情報公開(NPOデータバンクに登録)している団体にのみ助成します。

【寄付システム】

寄付システムには2つの方法があります。(1)メイン基金(とちぎコミュニティ基金 本体助成)、(2)冠(かんむり)基金です。

(1)メイン基金(とちぎコミュニティ基金本体助成)は「とちぎコミュニティファンドに直接に寄せられた皆様からの寄付金を合わせて、分野ごとに助成する仕組みです。助成する団体は原則公募方式とし、審査や選考も原則公開で行います。

(2)「冠(かんむり)基金」は企業や団体(個人)からの寄付で、特に分野やテーマを指定して応援したい場合、寄付者のお名前や、助成目的を冠した特別枠の助成基金を作ります(原則は毎年継続の大口寄付です)。助成する団体は原則公募方式で、審査や選考も原則公開で行います。また、寄せられた寄付金の中から20%~40%をとちコミ運営経費として使用します。

【NPOデータバンク】

「市民活動団体の情報公開」は寄付くださる市民・企業の側と、NPO・市民活動団体側との信頼をつくりだすために不可欠のものです。この「NPOデータバンク」に登録された情報はホームページ(<http://tochikomi.canpan.info/>)で公開するほか、県内各地の中間支援団体で閲覧できるようにします。また、このとちぎコミュニティファンドからの寄付・寄贈品の助成を受けようとする団体は、「NPOデータバンク(CANPAN)」への登録が必須条件になります。「信用できる市民活動団体を自信をもって紹介すること」が目的です。現在17団体が登録している。

2.運営

とちぎコミュニティ基金の運営は、趣旨に賛同した中間支援団体6団体の共同運営(本会、とちぎ協働デザインリーグ、宇都宮市民まちづくり工房、コラボレ真岡、とちぎ市民活動推進センターくらら、かぬま市民活動広場ふらっと)とし、団体の共同プログラムとします。会議は毎月1回行っています。

(1)メイン基金の運営 (NPOの活動資金の援助事業)

メイン基金は本会内に「とちぎコミュニティ基金特別会計」を設けて認定NPO法人としての寄付控除を活かして運営する。冠基金とは違って、とちコミ運営委員会直営的にNPOに公募、配分できる資金として受けつける。財源をため一定額が集まったら実施する。

①「寄付ハイク」の実施

定期的にとちコミの存在を知らせ、NPO自身の寄付の努力を促すため「NPO合同寄付キャンペーン」寄付ハイクを実施した。とちコミ登録団体の中から参加団体を募り、チラシを作成。ホームページ、口コミで広報と寄付集めをした。寄付ハイク参加は81人、寄付総額は900,250円であった(寄付内訳は下表のとおり)。なお本会・フードバンクは241,000円、若者未来基金は167,500円となった。

今期は前回と同様に栃木市で実施した。街歩きコースと田舎歩きコースのほかに「大平山頂往復ラン」コースを設け、イベント性を高めた。各団体にも「歩かない人でも声をかけ、事前に寄付をあつめるようにする」などのノウハウを提供した。寄付イベントは団体の宣伝の催しであることも意識づけした。

■寄付ハイク応募要項(成果等は(3)とちコミ強化事業参照)

寄付ハイク 歩きつづけて第4回! 春のとちぎを歩いてイイことしよう。 5/19(土)9-15時 栃木市 主催:栃木県 企画運営:とちコミ	参加
---	----

<p>栃木県にはたくさんのNPO（非営利団体）があります。貧困や引きこもり、障害者、環境などの社会問題を解決したり、より豊かな栃木県をつくるための活動がんばっています。</p> <p>寄付ハイクとは、ハイキングを楽しみながらそれらの活動を知り、支援しようというチャリティイベントです。新緑の太平山南山麓では運がよければ、スカイツリー・筑波山・富士山が見えるかも！蔵の街とちぎは、蔵の街かど映画祭開催中！寄付ハイクの醍醐味は、楽しみながら社会貢献できること。さあ、みんなで一緒に歩きましょう！</p> <p>①春の大平山いなか歩きコース…新緑の中、ゆるやかな登り坂・下り坂を3時間、約8Kmのコース。●JR大平下駅⇒大中寺⇒清水寺⇒かかしの里(昼食)⇒JR大平下駅(解散)</p> <p>②蔵の街とちぎ散策コース…小江戸の風情を楽しみ、よりみちしながら歩く3時間、約5Kmのコース。●栃木駅⇒巴波川沿いを幸来橋から蔵の街へ⇒例幣使街道⇒公園で昼食 ⇒栃木市駅前庁舎(解散)</p> <p>③大平山頂上往復ラン・コース…走ったり・歩いたりして頂上をめざし、時間までに戻ってくるRUN&WALK1.5～2時間、約7.5kmのコース(交通規則は守ってね)。●旧警察署跡地10:00⇒あじさい坂(階段上がる)⇒大平山神社(山頂)⇒車道下る⇒くらら(昼食・プレゼン聞く・解散)</p> <p>●ルール：①3つあるコースのどれかを選んでハイキングを楽しみます。②昼食後、各NPO（非営利団体）の代表者が活動紹介を行います。③応援したい寄付先を決め、1,000円以上寄付します。</p>		81人
<p>総額 900,250 円の内訳</p> <p>(コース別)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山コース：91,000円(22人) 街コース：348,000円(44人) 寄付のみ：373,000円(115人) <p>(団体別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ウイメンズハウスとちぎ 8,200円 	<ul style="list-style-type: none"> 若者未来基金(とちぎVネット) 167,500円 フードバンク(とちぎVネット) 241,000円 チャイルドラインとちぎ 28,500円 サバイバルネット・ライフ 42,500円 もうひとつの美術館 13,000円 まごの手 22,000円 蔵の街たんぼの会 705,00円 	<ul style="list-style-type: none"> 栃木おやこ劇場 7,000円 トチギ環境未来基地 92,650円 だいじょうぶ 99,900円 ウエーブ 51,400円 あるべき支援を考える会 14,000円 うりずん 24,000円 とちぎコミュニティ基金 18,100円

(2)冠基金「花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業 (NPOの活動資金の援助事業)

花王(株)の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第5回目の助成金配分である。とちぎの宣伝を兼ねる意味で「NPOデータバンク」への登録を必須とせず、簡易な方法での応募とした。

審査は12月17日の第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により3団体にしぼる方法とした。メイン助成は**20万円が1団体、10万円が2団体、サブ助成各団体3万円の総額49万円**である。応募は**12団体**だった。2月9日に「ファンドレイジング栃木」で贈呈式をおこなった。

<p>栃木県内のNPO・市民活動団体を応援 —2012年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)—【とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成】</p> <p>花王(株)では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。</p>	
<p>■ 1、助成内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 助成総額：49万円 助成団体数：6団体 助成金額/メイン助成：20万円=1団体、10万円=2団体 ・サブ助成：3万円=3団体 1次選考(書類審査)を通過した団体のうち、2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円 <p>■ 2、選考までの流れ</p> <p>◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着</p> <p>◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティファンド運営委員会により、二次選考の6団体を選出。</p> <p>◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。</p> <p>◎贈呈式・レセプション：3月10日。くららフェスタにて第1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。</p> <p>◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔にご報告ください。</p>	<p>■ 3、応募団体の条件</p> <p>①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)</p> <p>②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年お休みのあとの応募は可)。</p> <p>※とちぎコミュニティファンドの「NPOデータバンク(CANPAN)」への登録は、今年度は必須ではありません。</p> <p>■ 4、応募・問い合わせ先</p> <p>とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市塙田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 H P http://tochikomi.org/</p> <p>選考結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■メイン助成：サ・いちかい子育てネット羽ばたき(20万円) ・オオタカ保護基金(10万円)・誰もが笑顔で暮らせるまちづくりを考える会「Seven Nursery」(10万円) ■サブ助成：あしかがごっここの会、なんとなくののわ、LINK とちまる・とちおとめず(各3万円)
<p>■会議等：/12/12 花王・助成金審査会(矢野・石川、花王2、他6人) 3/10 くららフェスタにて贈呈式をおこなった</p>	

(3)冠基金「とちぎゆめ基金」事業（NPOの活動資金の援助事業）

NPO法人とちぎ障害者労働自立センターゆめからの（寄付）預託金を、障害者など社会的に排除されがちな人の（職業）自立支援を行うNPOに対し事業助成をした。

一次審査は12月12日に実施し、応募10団体のうちから4団体を選考、2月9日の「ファンドレイジング栃木」で来場者へのプレゼンテーションを行い投票。投票結果を加味して審査委員で協議し、大きなゆめ助成(30万円・2団体)、小さなゆめ助成（5万円・2団体）を選んだ。

応募団体には、とちコミの「NPOデータバンク登録」を必須としている。

<p>2013年度 とちぎゆめ基金事業助成【応募要項】</p> <p><助成内容></p> <p>●助成の主旨：このプログラムは、障害児者または生きづらさを感じている方たちの社会参加を目指した民間ならではの事業に対して助成を行います。（※現在実施中で来年継続予定の事業での応募も可能です。） その結果、そうした方たちの社会参加と周囲からの理解が進み、誰もがその人らしく生きられる社会に少しでも近づいていくことを期待しています。※前年ゆめ助成（30万円）を受けた団体も、事業の経過報告書を添えて応募できます。</p>	
<p>●助成対象活動内容：障害がある、職場・学校になじめない、DV被害等の理由で、生きづらさを感じている方たちの、就労を含めた社会参加を支援する実践活動</p> <p>●助成期間：2014年4月1日～2015年3月31日までの1年間</p> <p>●助成金額、件数</p> <p>(1)「とちぎゆめ基金事業助成」：1団体最高30万円×2団体（※入件費充当可）</p> <p>(2)「小さなゆめ助成」：とちぎゆめ基金事業助成の選考にもれた団体の中から、 奨励金として5万円を2団体に助成します。</p> <p>●応募条件：とちぎコミュニティファンドのNPOデータバンクへの登録が必要です。詳しくはホームページをご覧ください URL：http://tochicomi.org</p> <p><応募について></p> <p>● 応募資格</p> <p>(1)とちぎコミュニティファンドのNPOデータバンクに登録（必須）し、団体の情報公開、 NPO全体の信用保証に積極的に協力していただける団体。</p> <p>(2)栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO（※法人格の有無問わず） ※社会福祉法人は対象外です</p> <p>● 応募方法</p> <p>(1)応募方法：応募要項をよく読んでいただき、応募申請書(所定の様式)に必要事項をご記入の上、 郵送にてお送りください。</p> <p>(2)応募要項・応募申請書の入手方法 ・とちぎコミュニティファンドHP（http://tochicomi.org）からダウンロード・郵送を希望される場合(下記問い合わせ先までFAXにて請求してください) 記載項目：郵便番号、住所、団体名、ご担当者名、電話番号</p>	<p>● 選考方法と選考基準</p> <p>とちぎゆめ基金関係者、当ファンド運営委員等からなる選考委員会にて第1次選考団体4団体を決定します。第2次選考は2月9日の「ファンドレイジング大会・栃木(仮称)」会場でプレゼンテーションを行っていただき、会場からの投票結果を加味して、授与式当日決定します。</p> <p>(1)障害児者や生きづらさを感じている方の生活や現状、課題に則した必要性の高い事業か。</p> <p>(2)事業の効果や継続性が期待されるか。</p> <p>(3)過去の実績等からみて実現可能性が高いかどうか。</p> <p>● 選考結果の発表</p> <p>第1次選考の結果は2014年1月中旬頃、文書で連絡させていただきます。「とちぎゆめ基金事業助成」、「小さなゆめ助成」のどちらになるかは2/9に会場で決まります。</p> <p>● 問い合わせ先</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク（事務局） とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら 宇都宮市まちづくりセンターまちびあ とちぎ市民活動推進センターくらら 真岡市市民活動推進センター コラボレーもおか
<p>2013年度助成団体</p> <p>大きなゆめ助成（2団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジド・コミュニティ(30万円) ・サバイバルネット・ライフ(30万円) <p>ちいさなゆめ助成(2団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎユースワークカレッジ(5万円) ・とちぎ青少年自立援助センター(5万円) 	

事業報告 F.【若者自立支援】

(1)若者未来基金の運営（若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援）

様々な悩みを抱えた若者や仕事に就くことが困難な若者に対して、総合的・段階的なサポートを行うために、とちぎボランティアネットワークに「若者未来基金」を設置し寄付を募った。寄付金は（一般社団）**栃木県若年者支援機構**のユースアドバイザーの活動費用や、若者の就業訓練の経費（奨励金）、また一般就労が困難な若者のための新たな仕事作りとした。今期は若者未来基金から 241,462 円を寄付したの就業訓練の運営のために使った。

3. 事業報告【その他の事業】

NPO法人会計基準の普及のため「会計基準ソフト」の廉価販売を実施した。本会から購入すると市価の一割引きになる代理店契約をソフト会社と結び、販売した。11本の会計ソフトが販売できた。総合的に判断すると収支は赤字である。

4. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数が**692人**になり、やや増加した。会費の額は**198万円**と前期200万円から微減、前々期の235万円からは84%の減少である。原因は会費未納者が多いことで、1年以上未納は488人(71%)、2年以上は119人(17%)になっている。振り込み手続きが面倒であることも予想され、「ついつい未納」になることが多いのではないかと思う。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない。フードバンクを支えるため、若者支援のため、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として会員の集いど接点を増やすことや会員への電話かけなどでのコミュニケーション方法を見直した。また、フードバンクや寄付ハイクなど、**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

(2) 寄付

年間寄付額は946万円になった。災害寄付を除くと前期とほぼ同じ寄付額であった。詳細にみるとフードバンク寄付は**チャリティウォーク 56.7で200万円の寄付があり、会員外からの寄付が増えたことが特筆すべき**である。ファンドレイジングによる支援者の拡大の可能性が見えてきた。

また、11月から1月末にかけて「**2013年度・とちぎVネット年末年始募金**」と街頭募金を実施し207万円になり、前期より25万円の減となった。何らかの対策が必要である。

前々期からNPO法人会計基準を導入したため、ボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。**ボランティア活動評価額は317万円**となり前期とった。ボランティアの働きを表現できることで、市民参加の道筋が可視化されることになった。

12/15(土)街頭募金(参加15人) 12/16(日)街頭募金(参加21人)

現在の寄付金の項目は以下の通り。

①一般寄付	通常の寄付(災害救援ベンダーの寄付も含む)	銀行引落し 年1回と毎月引き落としの方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる
②年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで		
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑤若者未来基金	就労支援の奨励金やユースアドバイザーの運営経費になる若支援の寄付。		
⑥フードバンクサポーター	フードバンク宇都宮に対する寄付		
⑦とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている		

(3) 事業収入

講師派遣事業は221万円の収入であり、一昨年と同じ水準に戻った。受託事業収入は新しい公共支援事業関係で1266万円であった。大きい委託事業中心だけの財源構成は非常に危険であり、その証拠に今年度は一転して超緊縮財政となっしまい、行政等からの委託事業もゼロである。自主財源確保が重要だが、寄付も含めて事業を行う必要もあり、安定的な委託事業も一定程度必要である。

中長期の発展計画に基づき事業収入構成のバランスを取ることが重要だとわかっていてもマンパワー、事業、資金などの現実が追いつかないことを痛感した。

5. 組織運営

(1) 会員総会（会員の集い・県央）

会員総会のあり方を見直し、支持会員・団体会員による**会員総会**と同時並行で、**会員の集い**を開催した。会員総会と同時刻に映画「逃げ遅れた人々～東日本大震災と障害者～」を上映し、その後会員全員で**第2部の講演会・交流会**を実施した。映画は約40人が参加、第2部では約60人の会員が集まった。

6月2日に実施した定期会員総会は、166人出席（うち委任状113人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。

また本会員総会に先立って、6月27・28日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

会員総会 兼 会員の集い（県央版） 2013/6/2 13:00-16:30 パルティ		参加 ●総会56人、映画40人、第2部：約60人
1、目的 ①会員総会の機会を使い、会員同士また職員との親睦と交流 ②会員の勉強会 ③会員拡大と会費集金 ④会員総会（正会員） 2、日時・場所 6月2日（日）13:00-16:30、とちぎ男女共同参画センター「パルティ」 3、内容 第一部は会員総会（13:00-14:30、支持会員、団体会員のみ、賛助会員はオブザーバー参加も可）と同時進行で映画を上映。 映画は賛助会員・一般の方。映画『逃げ遅れた人々～東日本大震災と障害者』 第二部 講演会 14:40-16:30 302号室 「縁を結ぶものは」フードバンク事業担当：徳山 篤	フードバンク事業担当が困窮者についての現状をお話します。その後お茶を飲みながら会員のつどいとしまして交流会を行います。 支持会員・団体会員・賛助会員（夫・妻などの連れ合いの方や息子・娘・お友達など会員のみなさんのお知り合いの方）是非最後の交流会までご参加ください。スタッフ一同楽しみにしています。 4、対象 総会：支持会員、団体会員 映画：賛助会員、一般（夫・妻などの連れ合いの方や息子・娘・お友達など会員の皆さんの知り合いの方） コーヒーサロン：賛助会員、支持会員、団体会員・一般（夫・妻などの連れ合いの方や息子・娘・お友達など会員の皆さんの知り合いの方）	

(2) 理事会（役員会）

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
6/2 第1回理事会	①事業報告・決算について ②会則の変更について ③復興支援サポート助成の選考について 二見、栗山、矢野、徳山、中野、山田、鈴木、趙、大金、市川、柴田、塚本、大浦、安藤、増田、欠席：なし
12/17 第2回理事会	①半期事業報告・決算報告 ②決算予測について 中野、徳山、市川、大浦、二見、矢野、増田、大金、塚本、柴田、趙、鈴木、安藤、欠席2：栗山、山田
3/25 第3回理事会	①事業計画、予算について ②疑似私募債の募集について 二見、栗山、矢野、徳山、中野、山田、鈴木、趙、大金、市川、柴田、塚本、大浦、安藤、増田、欠席：なし

(3) 運営委員会

運営委員会を毎月第2火曜日19:30から開催した。運営委員は役員、職員全員、運営ボランティアによって構成され、出席は任意だが職員は必ず出席することになっている。

運営委員会活性化のため委員を増やした。運営委員自体の役割も徐々にできつつあり、フードバンクや生活困窮者の支援、ファンレイジング等の具体的な活動ができるようになってきた。運営委員の公募等も含め委員会の改革中である。また、運営委員会でV情報の編集会議を同時に開催した。

<p>●運営委員会出席者</p> <p>4/9 矢野、青木、徳山、君嶋・安藤・石田、中野、塚本あ</p> <p>5/14 二見、安藤、君嶋、岩井、石田、徳山、青木、菊池、矢野</p> <p>6/11 岩井、矢野、菊池、徳山、中野、塚本あ、青木</p> <p>7/9 石田、塚本、中野、徳山、矢野、菊池、青木</p> <p>8/20 矢野、菊池、青木、徳山、中野、塚本、石田</p> <p>9/10(石田V、君嶋V、中野、塚本、安藤V、矢野、菊池、徳山、青木</p>	<p>10/6 矢野、徳山、青木、菊池、中野、塚本、石田V</p> <p>11/12 青木、徳山、中野、塚本、石田、菊池</p> <p>12/1 菊池と、君嶋、塚本あ、青木、大泉、徳山</p> <p>1/22 黒須、藤田、菊池、君嶋、鈴木、石田、塚本・矢野・青木・徳山</p> <p>2/11 徳山、石田、黒須、青木、菊池、塚本あ、中野</p> <p>3/11 矢野、徳山、塚本、君嶋、青木、菊池、大泉、安藤、菊地、柴</p>
--	---

(4) 会員の集い(Vネットの集い)、支援者のつどい

会員活動の活性化を図るため県北、県央、県南の3地区に分け、各地ごとに会員の集いを行った。県央は会員総会と集いを兼ねて実施した。また会員の集いは会員限定のイメージがあるため、年度後半から「Vネットの集い」と名称変更した。

各地で会員どうしのつながりをつくること、事務局スタッフと知り合いになり、活動の中身を知ってもらうことの2つが目的である。「みんなdeごはん」というフードバンクチャリティのためにV飯を食べるながら実施し、終始なごやかな懇親の場となった。

また「支援者の集い」は、主に会員外の寄付者に対して、本会の活動を知ってもらう機会として10月6日に実施した。職員が作った昼食を食べながら活動を知っていただく機会となった。

<p>会員の集い・県北 2013/4/4 国際医療福祉大リハセン・ボランティアセンター</p> <p>Vネットの集い・県南 フードバンクチャリティ「みんなdeごはん」2014/2/14 くらら</p> <p>フードバンクチャリティ「みんなdeごはん」</p>	<p>参加数 県北40人、県南15人</p>
<p>●持参品⇒食べ物1品(2・3人分・おかずになるもの)+500円以上の寄付</p> <p>「会員の集い・県南」のよそおいを変えて、「Vネットの集い・県南：フードバンクチャリティ・みんなdeごはん」をやります。ご飯を食べながらVネットの活動について、これからの栃木づくりについて、みなさんのことなどを気楽に語り合しましょう。一人でたべるよりみんなで食べる方がいいですね。コンビニ依存から自炊に、自炊から共食に、食べてフードバンクへの寄付にもなります。【共に食べる】は本格化するおひとりさま社会の共生法かも。</p> <p>●参加方法/食べもの1品(おかずになるもの3・4人前程度)+500円以上の寄付(フードバンクへの寄付になります)。主食のごはんは炊いておきますので予めご予約ください。</p> <p>※勤め帰り参加の人は自作料理でなくてもOKです。</p> <p>※「材料費300円で作った」など、勝手にチャレンジしていただいてもOKです。</p> <p>●会員同士の懇親と新たな仲間をつくる集まりです。みなさんのお友達を誘ってぜひ参加してください。会員外の人でも自由に来れます。</p> <p>●申込は電話で。028-622-0021 とちぎVネットまで</p>	

<p>支援者の集い2013 10/16(日)11:45-14:30 ぽぽら にて</p> <p>1、目的</p> <p>①支援者への感謝の気持ちを表す。</p> <p>②会員も含め、寄付で協力している支援者に対し、Vネットの活動を知ってもらう機会とする。</p> <p>③支援者同士がどのような活動をしているかを知り、相互の交流を深める機会とする。</p> <p>④会員ではない支援者(寄付者)に、Vネットの会員になってもらえるように、情報提供をする</p> <p>⑤Vネットや他のボランティア活動に参加するきっかけとする。(特にFBの拠点活動など)</p> <p>2、対象者： 2013年度と2014年度の寄付者：420人</p>	<p>参加数 21人 うちスタッフ7人</p> <p>3、日時・場所 10月6日(日) 11:45~14:30、とちぎボランティアNPOセンターぽぽら 会議室</p> <p>4、内容</p> <p>①昼食会(参加費200円) / 参加者自己紹介</p> <p>②感謝の会 / ビデオレター、テーブルトーク</p> <p>③Vネットの活動概要 / フードバンク、チャリティーウォークPR・若者支援報告</p> <p>※②と③を適宜まぜながら実施する。</p>
--	--

(5)役員、職員、Vネットサポーターの研修・懇親など

理事が一部担当制になったことで研修システムが利用されだした。(交通費・参加費の7割を本会が負担)特に災害ボランティアオールとちぎでは、この研修規定を使って会議・研修に行っている。同様に職員・ボランティアを「東海地震の広域図上訓練」に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に1回の交流会(飲み会)を行った。

(6)サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは、**年間2万円の定期的な寄付**をいただけること、クラブ員の親睦のため年に2回の定例会(親睦会)を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会である。

今期は会員のつどいなど組織運営のための事業が多すぎて、1回だけの開催しかできなかった。

<p>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日 (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市埴田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p>	<p>1. 寄付に関する事 2. クラブ員の親睦に関する事 3. その他、目的達成に関する事。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上</p>	<p>[3] 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 役員名簿 代表: 高橋昭彦さん 副代表: 高木敏江さん 会計&事務局: 菊池順子</p>
<p>12/28(土)忘年会兼・サンクスVクラブ(約30人)</p>		

(7)委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

①**新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱**…毎週木曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在2人

②**災害ボランティアオールとちぎ会議**…毎月第1・3水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議している。活動はほぼ毎週末の土日に行う。

③**フードバンク会議**…毎月第2・4水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議している。活動は毎週水曜日に実施。